

## 鶴田町学力向上推進実態調査

### 平成20年度－平成27年度比較分析結果【まとめ】

#### 1. 児童生徒と保護者との間で認識にズレがあるもの

テレビ・ゲーム・スマホ・携帯使用に係る約束事の有無

【保護者の方が「ある」と答えた割合が多い】

1日の読書時間

【保護者が思っているよりも、児童生徒はよく読書をしている】

家庭学習の内容

【予習をしていると考えている保護者が1%未満（実際は22%）】

勉強が知識を身につけるために役立つという考え

【保護者の方が「そう思う」割合が多い】

勉強が尊敬される人になるために役立つという考え

【保護者の方が「そう思う」割合が多い】

#### 2. 児童生徒と保護者との認識がほぼ一致するもの

朝ごはんの摂取率

家庭での学習時間及び家庭学習をする時間帯

勉強が希望する高校や大学に行くために役立つという考え

勉強がいい仕事（やりたい仕事）につくために役立つという考え

#### 3. 教師の意識の変遷

「教師の教え方の工夫改善」が学力向上の最多要因となっており、数値も伸びている。

教え方の研究が進んでいることが背景にあると考える。

家庭での必要学習時間について、小学校では短くなっているのに対し、中学校では長くなっている。

小学校と中学校における、家庭学習意義の差異が広がったと考えられる。

#### ■ 総括

- ・小・中学生とも、家庭学習の時間が増加している。
- ・特に中学生について睡眠時間が減少し、「家庭で学習すべき時間」が児童生徒・保護者ともに増加している。
- ・勉強が何に役立つかについて、進学や就職のためと回答した割合が、児童生徒・保護者ともに増加している。
- ・テレビ等の視聴時間と読書時間について、7年前も現在も、児童生徒と保護者との間で認識にズレがあり、そのズレを解消することが課題と言える。